

第3群(活動報告)

気仙沼圏域における医療と介護の連携推進

発表者(筆頭者)所属・氏名 気仙沼保健福祉事務所 技師 荒木真央

吉田信三, 三宅ゆかり

キーワード: 地域包括ケアシステム, 医療と介護の連携, 関係機関との協働

I はじめに

医療と介護の連携の一層の推進を図り, 質が高く効率的な医療及び介護の提供体制を整備することが求められている。気仙沼圏域での医療と介護の切れ目のない連携を行うためのツール作成及び平成 30 年 4 月に行われた診療報酬と介護報酬の同時改定を受けて関係機関と協働して実施した研修会において, 地域・関係者が主体的に取り組む動きを支えるための気仙沼保健福祉事務所の活動状況について報告する。

II 方法

地域の関係機関が主体となった取り組みである医療と介護の連携ツール作成及び平成 30 年 4 月に行われた診療報酬と介護報酬の同時改定を受けての研修会開催を支援した。

III 活動内容

1. 気仙沼圏域における医療と福祉の連携の経緯

気仙沼圏域では, 医療と福祉の密な連携と相互理解を深めることを目的に平成 23 年 8 月に気仙沼地区地域医療委員会内の専門委員会として「気仙沼・南三陸地域在宅医療福祉推進委員会」が設置されている。また, 平成 25 年 5 月に「在宅療養システム部会 (兼在宅ワーキンググループ/KNOAH)」及び「住民啓発部会」の 2 つの部会が設置され, 具体的な課題解決へ向けた検討と取り組みが行われている。

2. 医療と介護の連携に関する課題解決へ向けた取り組みとその成果

住民啓発部会が平成 25 年 9 月から開催している「住民向け在宅療養推進フォーラム～おうちっていいよね～」をとおして, 関係者が地域課題を自分ごととして考え, 課題解決への前向きな思いが聞かれるようになってきている。また, KNOAH では課題解決に向けた取り組みを継続した結果, 住民の生活を支援する一部として協働する意識が共有され, 現場での仕事に活かせるネットワークが形成されている。KNOAH での課題解決に向けた取り組みをきっかけとして, ①医療機関とケアマネジャーの連携連絡票, ②入院時情報提供の手引き, ③退院へ向けた気仙沼市立病院と介護支援専門員との連携の手引き, ④介護保険施設入所に係る共通診断書といった医療と介護の連携ツール作成にも至っており, 当所では, 連携ツールの作成及び運用にあたって, 関係機関との調整や意見聴取及び協議や説明機会の確保等の取り組みの下支え, 地域で運用できるための基礎づくりを意識して活動した。また, 求めに応じた速やかな支援と連携の場への積極的な参加を意識し, 関係者との信頼関係を築いた。

3. 関係機関と協働した研修会の開催

平成 30 年 4 月の診療報酬と介護報酬が同時改定されたことを受け, KNOAH において医療と介護の双方の報酬改定の内容を対照させ多職種間で学んだところ, 職域を超えて圏域全体に周知する必要があるとの意見が参加者から寄せられ, 三師会, ケアマネジャー協会気仙沼支部, 管内市町及び当所が協働して 5 月 18 日に研修会を開催し, 120 名を超える参加があった。

IV 考察

医療と介護の連携に関する課題解決へ向けた取り組みをとおして, 関係者との顔の見える関係づくりや地域の求めに応じた支援を継続してきたこと, また, 連携の場への積極的な参加をしていたことから, 関係機関が協働して行う研修を年度の早い時期に実施するための調整を円滑に行うことができた。求めに応じた対応を行ったことで関係機関との信頼関係がより強いものとなり, 連携体制の強化にもつながっているため, 今後も地域から発信された課題を速やかに解決できるよう主体である地域と関係者をバックアップすることが必要である。

V おわりに

気仙沼圏域では, 医療と介護の連携が進んできており, 連携の過程から現場に活かせるネットワークや関係者間での信頼関係が構築されている。関係者が地域課題を自分ごととして考え, 実際の活動にもつながっていることから, 築いてきたつながりを活かして, 医療・介護連携にとどまらない地域包括ケアシステムの推進を図り, 地域の自主性や主体性に基づいた活動とその発展を今後も支えていきたい。